

消防訓練 実施マニュアル



1 消防訓練（総合訓練）全体の行動フロー



※訓練終了後に実施検証し、結果を次回の訓練に反映させる。

※消防訓練実施結果報告書を作成し、消防署に提出する。

2 「通報訓練」の流れとポイント



※ ポイント

【基本】 会話形式で実施する。

【応用】 電話を使用（訓練時は119番をかけない。）
最寄りの消防署に電話する。

【火災通報装置による通報】（設置している場合）岩手県消防指令センター 019-601-5850

- ① 直前に岩手県消防指令センターへ、火災通報装置による訓練を行いたい旨を連絡する。
- ② ボタンを押して通報する。（折り返しの電話に、訓練の旨を伝え応対する。）

【通報に便利な119番通報メモ】

119番通報メモ

1 火事ですか・救急ですか？

火事です・救急です

2 住所

市・区・町・村 町 丁目 番 号

建物(ビル)の名称・階数・店名は…

3 何が燃えていますか (出火箇所はどこですか？)

4 目標となるもの

近くにある目標となるものは…

5 通報者の氏名

あなたの氏名

6 通報者の電話番号

電話番号

この公衆電話の番号は…

()

この119番通報メモに、住所・目標となるもの・電話番号等の通報項目を記入して、電話機の前など目立つ場所に貼っておくと便利です。

【119番通報（緊急通報）の受付場所について】

北上市及び西和賀町から119番通報した場合、「[岩手県中央消防指令センター](#)」（盛岡中央消防署内に設置）につながります。携帯電話やスマートフォンからの通報では、通報している場所を素早く特定することができませんので、できるだけ詳しく住所、また、建物名等目標となるものを通報してください。

※通報訓練では119番はかけられません。

【通報例と受付先】

通報訓練受付先

※訓練では119番はかけられません。下記へお問い合わせください。

北上消防署	北上市柳原町二丁目3番6号	0197-64-1122
北上消防署和賀分署	北上市和賀町藤根17地割70番地	0197-73-5852
北上消防署大堤分署	北上市相去町平林3番地5	0197-67-4981
北上消防署村崎野分署	北上市村崎野22地割142番地2	0197-62-5119
西和賀消防署	西和賀町沢内字大野13地割3番地18	0197-62-5350



119番通報訓練の例

※訓練では119番はかけられません



最寄りの消防署の代表電話に発信

はい、消防指令センターです。火事ですか？救急ですか？

訓練の火事です。

住所(場所)を教えてください。

「北上市北上町1番19号 ○○さんの家です。」
「西和賀スーパー北側です。」

「燃えている建物は何階建てで、何階が燃えていますか？」
「何が燃えていますか？」

「2階建ての1階が燃えています。」
「ゴミ捨て場が燃えています。」

逃げ遅れた人や、けがをした人はいますか？

「2人が逃げ遅れ、3人がけがをしました。」
「わかりません。」

あなたの名前、今掛けている電話番号を教えてください。

名前は北上三郎です。電話番号は○○です。

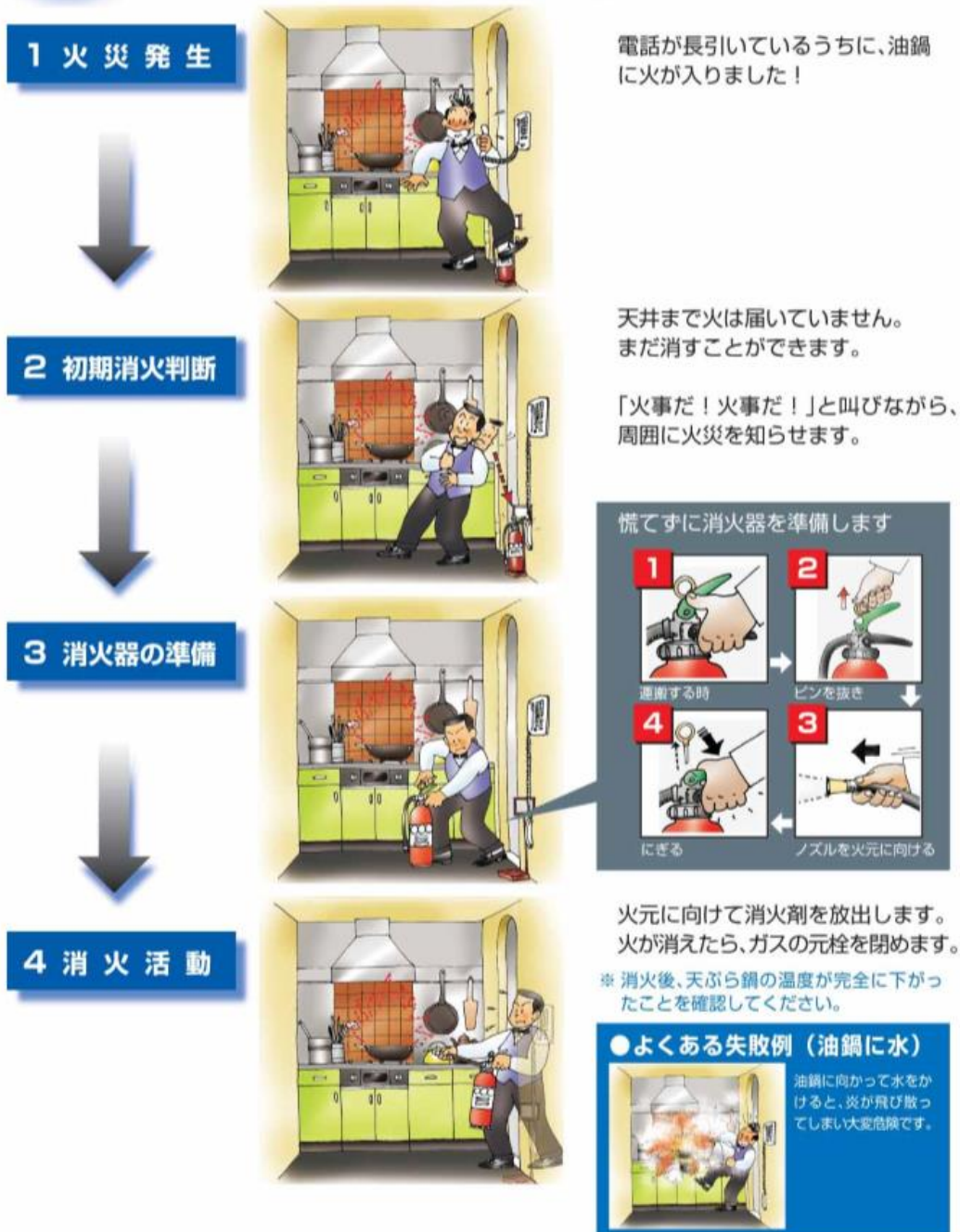
電話を切って安全な場所へ避難してください。

あくまでも通報例です。誰もが説明できるよう普段から全員で確認しておく事をお奨めします。

※ 119番通報では、消防職員が尋ねたことに落ち着いて答えてください。また、分からないことについては、「分かりません」と答えてかまいません。いざというときに住所、電話番号等が答えられないことも考えられるので、電話機付近の目に付きやすい所へ必要事項を記入した紙を貼っておく準備をしておくといでしょう。

3-1 「消火訓練」(初期消火)の流れとポイント

① 消火器を使用する場合



※ ポイント

【基本】 ① 消火器の設置位置を確認する。

② 持ち上げて取扱い方法を確認する。

③ 数秒間構えてみる。

【応用】 (水消火器を借用しての訓練、お問い合わせ先は別紙)

① 最寄りの消防署(分署)に借用予約の電話をする。

② 最寄りの消防署(分署)で借用書に記入し、借用する。

③ 屋外にて、模擬消火訓練を実施する。

3-2「消火訓練」(初期消火)の流れとポイント

② 屋内消火栓を使用する場合

●屋内消火栓には2つのタイプがあり、それぞれ操作要領が違います。

1 1号消火栓

1号消火栓は、ホースが折りたたまれて消火栓ボックスに収納されているため、ホースを延長した後でないと水をホース内に流すことができません。このため、ホースを火元付近まで延長し放水すると消火栓のバルブを開放する人の、最低でも2人の操作員が必要となります。

①消火栓ポンプ起動



②ホース延長



③バルブ開放・放水

出火箇所に接近した操作員の放水準備ができたら「放水はじめ!」の合図で、消火栓のバルブを開放し放水します。



2 2号消火栓・易操作性1号消火栓

2号消火栓・易操作性1号消火栓は、ホースがドラムに収納されているため、収納状態でもホース内に水を流すことができます。このため、一人で操作することができます。

①バルブ開放

バルブを開放すると消火栓ポンプが起動します。



②ホース延長



③放水

ホースノズルのコックを開き放水します。



注意

1. 訓練中は安全を管理する担当者を設けましょう。
2. ホースを延長するとき障害となる物がないか確認しましょう。
3. 放水する時はノズルから絶対に手をはなさないようにしましょう。
4. 火災の時、いきなりドアを開けると空気(酸素)が流れ込み一気に火勢が強まる場合がありますので、まずドアを少し開いて、様子を見てからドアを開けましょう。

4 「避難訓練」(避難誘導)の流れとポイント



※ ポイント

【基本】

- ① 模擬出火場所から近い場所で避難を呼びかけて、廊下及び階段を利用し避難させる。
- ② 避難経路を確認し、非常口等に不要品が置かれていないかを確認する。

【応用】(自動火災報知設備を設置している場合)

- ① 自動火災報知設備の受信機を見て、模擬火災場所を確認する。
- ② 模擬火災場所に駆けつけ、状況を確認する。
- ③ 基本の①、②を実施する。

【避難通路・避難階段の維持管理】

避難通路



これでは
消防法違反です。



避難通路に物が放置されていたり、非常口がふさがれていると、避難経路が断たれ、大変危険です。

避難階段



これでは
消防法違反です。



避難階段が倉庫代わりになった状態。階段に物が放置されていると、避難経路が断たれ、大変危険です。

※避難時に使用する通路や階段には物を置かないよう、常に維持管理に心掛けましょう。